

これからも市民の皆さまとともに

(仮称)道の駅しろいし整備事業

(仮称)道の駅しろいし整備事業は、令和2年10月に事業化された(仮称)白石中央スマートインターチェンジに隣接する敷地を活用して、道の駅と防災公園(スポーツ・レクリエーション施設)を一体的に整備・運営し、人々が交流する拠点としてだけでなく、都市防災、中心市街地との連携などにも寄与する中核的な場の形成を目指すため整備を行うものです。

また、市民の健康増進や生活の充実を起点として、交流人口の拡大や既存の観光施設と連携した周遊ルート形成など、観光をはじめとした地域産業の活性化を図るとともに、城下町としての街並み、受け継がれてきた歴史、伝統、文化、蔵王連峰をはじめとする美しい景観と豊かな自然など多世代が健やかに暮らしやすい環境にも恵まれた、これら白石らしさのさらなる魅力を向上させ、本市の未来に向けて、持続可能な地域社会を構築することを目的としています。本施設が整備コンセプトである「しろいしの魅力発信・地域と文化の交流による新たな価値を創造する地域防災拠点」となるよう事業契約を結んだ「株式会社しろいしグロウパーク」とともに令和9年7月の開業を目指します。



▲(仮称)道の駅しろいし整備事業 イメージパース

教育改革3.0

次代を担う子どもたちは本市の宝です。その子どもたちが未来に向かって希望を持ち、一人一人が持つ能力を最大限伸ばしていくことを目指します。学校教育においては、令和元年度より「教育改革元年」、令和4年度より「教育改革第2ステージ」と位置づけ、教育改革を推進してきました。学力の向上や学びの多様な学校開校による不登校支援の充実など、その成果が認められています。

しかし、グローバル化の進展、超スマート社会の到来など、社会は急速かつ大きく転換し続けています。その変化や状況に適切かつ柔軟に対応するため、令和6年度より教育改革を一層強化し、新たな施策を展開する「教育改革3.0」を進めています。幼児・児童・生徒の生きる力(確かな学力・豊かな心・健やかな体)を育成し、子どもたちの夢や志をかなえる力の育成を図ってまいります。



▲新たな学びの場「白石きぼう学園」



▲デジタル教材を利用する児童たち



10月27日、任期満了に伴う白石市長選挙が行われ、即日開票の結果、現職の山田裕一氏が再選を果たし、11月14日に第19代白石市長に就任しました。今号では、山田市長の3期目の方針などを紹介します。

山田市政 第3期 始動!
「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」の実現へ!

10月27日執行の白石市長選挙において、市民の皆さまからご信任を賜り、引き続き市政運営の重責を担わせていただくこととなりました。これまでの2期8年間の経験を生かし、皆さまから寄せられた信頼に応えるべく、「健康・文教都市創造」による「選ばれたまち白石」の実現に向け、誠心誠意、全力で市長の職責を果たしてまいります。

これまで誰も経験したことがない急激な少子高齢化と人口減少によって、市政は大きな変革を迫られています。市長就任以来、このままでは白石市が消滅してしまうのではないかとという危機感から、市政課題を先送りすることなく、愛するふるさとを次の世代につないでいくためのさまざまな施策を進めてまいりました。前例のない新しい施策にも

積極的に挑戦してまいりましたので、施策を実行していく過程にはさまざまな困難もありましたが、今、それらの施策の成果がようやく芽を出し始めています。

3期目となる次の4年間は、引き続き市政改革にまい進するとともに、見え始めたさまざまな施策の成果を確かなものとし、改革の先にある白石市の将来像、ふるさとの笑顔があふれる未来の姿をしっかりと市民の皆さまにお示ししてまいります。